

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
ファッション論 Fashion Theory		1年	前期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	講義	選択	特になし	
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
特になし				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
特になし				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー	電話番号・メールアドレス	
阿部芳子	福祉棟3階	授業中に指示する	授業中に指示します	
授業の概要				
ファッションを様々な角度から考えることにより、現代の社会やファッションビジネスの理解を深め、各自のモノの見方、捉え方、考え方を関連づける一助とする。				
授業の目標				
急成長する21世紀のファッションビジネスを理解するためには、ファッションの過去を知り、現在について掘り下げて理解することで、デザイナー自身の考えや志向、関心、ビジョンなどが理解され、さらにファッションビジネスを理解する一助になる。				
授業の方法				
テーマ別に、資料、ビデオ等からリサーチし、発表形式で行う。				
学習の成果(学習成果)				
自分のデザインを人々に披露し、演出する方法が理解できる。また、各人のデザインの側面を理解できるようになる。ファッションの流行現象やファッションビジネスについても理解が深まる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	社会におけるファッション、人はなぜ衣服を着るのか			
第2回目	ファッションを読み解く足がかり 言葉によらないコミュニケーション			
第3回目	ファッションを理解する①(生き方・年齢などによるファッション) ファッションスタイルとライフスタイル			
第4回目	ファッションを理解する②(ファッションの歴史を知り、ファッションを先読みする) 服装の起源			
第5回目	近代デザインの歩み フランス革命とルイ王朝時代			
第6回目	19世紀末バウハウススタイルの出現 服装の美と機能			

第7回目	社会的状況がファッションを変貌させた時代 戦争・革命		
第8回目	ジャポニズムの成立と文化、アールデコ、服飾・建築・工芸への影響、ウィリアムモリス		
第9回目	衣服の基本構造、身体意識、服装と化粧の関係		
第10回目	ジーンズファッションの変容、性差とファッション、流行現象とは何か。		
第11回目	ファッション素材論		
第12回目	着物の一般知識、歌舞伎・能・宝塚の資料から学ぶファッション感		
第13回目	サブカルチャーとファッション(文化としてのファッション)、自分のファッション感を表現する①		
第14回目	地球環境とファッション、自分のファッション感を表現する②		
第15回目	スローライフ・リサイクルシステム、2014春夏ファッション情報 まとめ		
成績評価の方法と基準			
	評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度		20%	遅刻欠席がなく授業に参加し、ファッションのいろいろな分野が理解されたか。教員の質問に的確に答えられたか。
レポート		20%	課題にそった内容で、まとめられ、期限内に提出されたか。
調査報告書			
小テスト			
試験			
発表内容(態度含む)		60%	テーマに沿った内容で、調査、まとめ、作品等で表現できたか。内容は細部にわたり、理解された内容か。
その他			
教科書と参考図書			
デザイン(文化服装学院編) 世界服装史(ナツメ社) ファッション情報誌WWD モードエモード 他			
履修上の留意点・ルール			
作品完成度の高い場合は、展示・ショーへの参加を依頼する。			